

健全育成シリーズ (149) 『失敗学』



ある大学で、「失敗学」という学問が評判になってきているそうです。

失敗は成功のもと、つまりきが次のステップになることは周知の事ですが、このような学問があることに大変興味を引かれました。

社会の急激な変化の中で、子ども達の体験不足が話題になります。

遊び方が変わり、映像でのゲームが主流となり、実体験での失敗を学ぶ機会が少なくなっていると思います。

子どもの頃のことです。忘れられない思い出が二つあります。

小学生のとき、小刀で左手の親指のつけ根を刺してしまいました。どんな状況で刺したのかはつきりしないのですが、血がふき出して大騒ぎになったことを覚えています。

今でも一センチ位の傷が残っています。もう一つは中学生のときのことで、校庭で野球のバットを振り回して、同級生の頭に当たってしまったことです。

けがはおおごとにならずに

済んだのですが、このことを家で秘密にしておいたことで、母親に鬼のような形相で怒られました。

何日か経ってから、近所でこのことを知った母は、黙っていたことに腹を立てたのだと思います。



子どものころの思い出には、痛みや何らかの悲哀と言ったものを伴うものが多いような気がします。そして、このような経験はその後の生活に影響を与えてきたと思います。我が身を抓って人の痛さを知れということばもあります。体験して身に染みてわかったことは何よりも貴重な教訓になっています。

小刀でけがをしたり、友達の頭にけがをさせたりというドジな失敗で、それを教訓にしているなどと書いて笑われてしまいそうです。

大学の「失敗学」とはかけ離れたものなのかもしれませんが、珍しい学問に引かれて、子どものころの失敗の思い出を書きました。

ネイチャーセンター ガイド (69)

連絡・問合せ先 ☎(45)6222
宝の山ふれあいの里ネイチャーセンター
開館時間：午前9時から午後4時まで
休館日：月曜日、祝祭日の翌日

●子ども達を「指導」する立場の方に伝えたい・・・

「子どもの心の中を見て欲しい」
喜怒哀楽 出せたかい？ 引き出せたかい？
自分は楽しかったかい？
子ども達に伝えていくことが使命だよ！
子どもは一所懸命な姿をあまり見たことがないよ！
だからムキに、がむしゃらに、恥ずかしがっちゃって、遊ばないよ！
大人が主催しているんだから、大人がまず遊ばなきゃ！

●都留文科大学からの勇者たち

センターでは、子ども達を受け入れる事業などの際には、たくさんの学生達にお手伝いをいただいています。本当にありがとうございます。
センターの意思「子ども達と本気で遊ぶ」ことの意味を明確に実体験でも伝えながら、学生達の子どもに対する未知なる思いを融合させ、時にはぶつけ合いながらこれからも受け入れ活動を展開していきたいです。
「都留文科大学生は、宝の山の宝、そして磨けばひかり輝く、原石でもあります」

●アナグマの迷走

なかなか耳にすることのない野生動物ではないでしょうか？このアナグマは、先月都留のとある場所で捕獲されたものです。捕獲理由は「農作物を荒らすから・・・」たまたま畑などに出てきますが本来、ミミズや小動物を食べてひっそりと森でくらしています。
動物たちのくらしもあたたかく見守ってやってください。



迷走するアナグマ



山の偉大さに魅せられて

●収穫できる喜びを・・・サツマイモ

6月に植付けした苗がようやく実となり、10月12日(日)に収穫しました。
これまでの月日はすさまじいものでした。イノシシ、ニホンザルに怯える毎日でした。そして、このサツマイモが育った環境も異様な光景に包まれています。



来月からオラの連載がはじまるよ



人間の知恵